千葉県八千代市

# 南海道遺跡 c 地点

― 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

2019

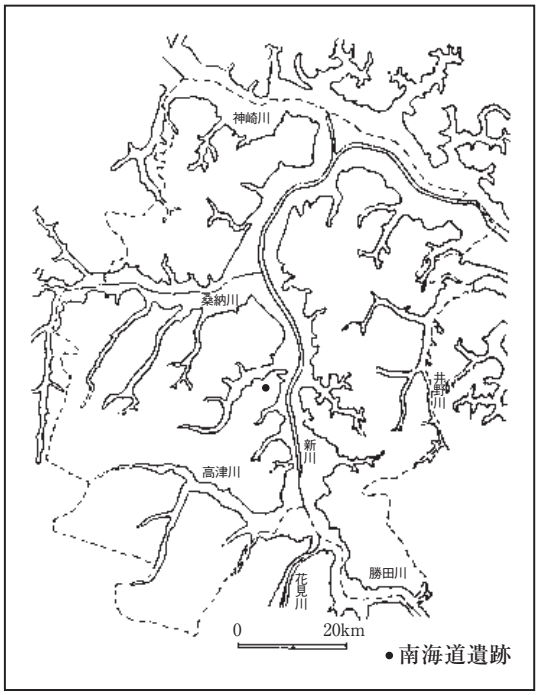
関　口　幸　男

八 千 代 市 教 育 委 員 会

千葉県八千代市

# 南海道（なんかいどう）遺跡 c 地点

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —




2019

関　口　幸　男

八 千 代 市 教 育 委 員 会

# 凡　　例

1　本書は，八千代市萱田字西堀747番１に所在する南海道遺跡ｃ地点の発掘調査報告書である。
2　発掘調査は，確認調査を国庫･県費補助事業として，本調査は，民間開発等埋蔵文化財調査事業として，事業者より調査協力金を納付いただき，八千代市教育委員会の委託事業として実施した。
3　発掘調査・本整理作業は以下のとおりである。
　［調査］確認調査　期間　平成30年５月15日～５月21日　面積64㎡/574㎡　担当　宮下　聡史
　　本調査　期間　平成30年７月24日～８月30日　面積308.5㎡　担当　宮澤　久史
　　調査補助員　伊藤衣莉加・桐原誠・小弓場直子・髙木秀夫・萩原雄一・橋本喜正・原田雪子
　　田中直子・玉井庸弘・山田俊二
　［整理］図版作成　期間　平成30年12月３日～平成31年１月28日　担当　森　竜哉
　　整理補助員　伊藤衣莉加・内田紀子・八幡奈緒子・柴田清加
4　本書の編集・執筆は，森がおこなった。
5　現場の遺構，遺物写真は宮澤が，報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。
6　本書の作成・刊行については，整理補助員と森が協力して行い，森が統括した。
7　出土遺物，実測図等の資料は，八千代市教育委員会が保管している。
8　本書の遺構番号は，発掘調査時の番号を使用している。
9　遺構・遺物の縮尺は，下記のとおり統一しているが，位置図・全体図等は別記した。
　［遺構］竪穴建物跡（Ｄ），掘立柱建物跡（Ｈ）１/80・カマド，炉跡１/30・ピット（Ｐ）１/30
　［遺物］縄文土器1/3，尖頭器2/3，土師器・須恵器1/4，鉄器軽石1/2，土玉石製模造品1/1
10　遺物実測図の中軸線サイドの空きは，復元実測を示す。
11　遺物実測図の実測番号脇の数字は，床面からの高さを表す。(㎝)
12　遺構・遺物のスクリーントーンは下記のとおり統一した。
　　焼土・赤彩　　カマド袖・粘土・須恵器・黒色処理
13　本書使用の地形図は下記のとおりである。
　第１図　八千代市発行　１/25,000八千代都市計画基本図
　第２図　八千代市発行　１/2,500八千代都市計画基本図
14　発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導，ご協力いただきました。記して感謝いたします。（敬称略）関口幸男　玉井庸弘　千葉県教育庁文化財課

**本文目次**

第１章　序説
　第１節　調査に至る経緯 …… 1　　第２節　調査の方法と経過 …… 1
　第３節　周辺と南海道遺跡のこれまでの調査成果について …… 1
第２章　検出された遺構と遺物
　第１節　縄文時代 …… 3　　第２節　古墳・奈良時代 …… 4
　第３節　ピット・０１Ｈ …… 11
第３章　まとめ
　縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代 …… 15

**挿図目次**

第１図　周辺の遺跡 …… 1
第２図　南海道遺跡調査区 …… 1
第３図　南海道遺跡ｃ地点遺構配置図 …… 2
第４図　縄文時代遺構実測図・出土遺物 …… 3
第５図　遺構外出土縄文土器 …… 3
第６図　０１Ｄ遺構実測図・出土遺物 …… 5
第７図　０２Ｄ遺構実測図・出土遺物 …… 6
第８図　０３Ｄ遺構実測図 …… 8
第９図　０３Ｄ出土遺物（１） …… 9
第10図　０３Ｄ出土遺物（２） …… 10
第11図　０４Ｄ遺構実測図・出土遺物 …… 11
第12図　ピット遺構実測図（１） …… 13
第13図　ピット遺構実測図（２） …… 14
第14図　０１Ｈ遺構実測図 …… 14

**図版目次**

図版１遺構［遺跡全景・01D ～03D］
図版２遺構［ピット］・遺物［01D・02D］
図版３遺物［03D(1)］
図版４遺物［03D(2)・04D・ピット・遺構外縄文土器］

# 第１章　序　　説

## 第１節　調査に至る経緯

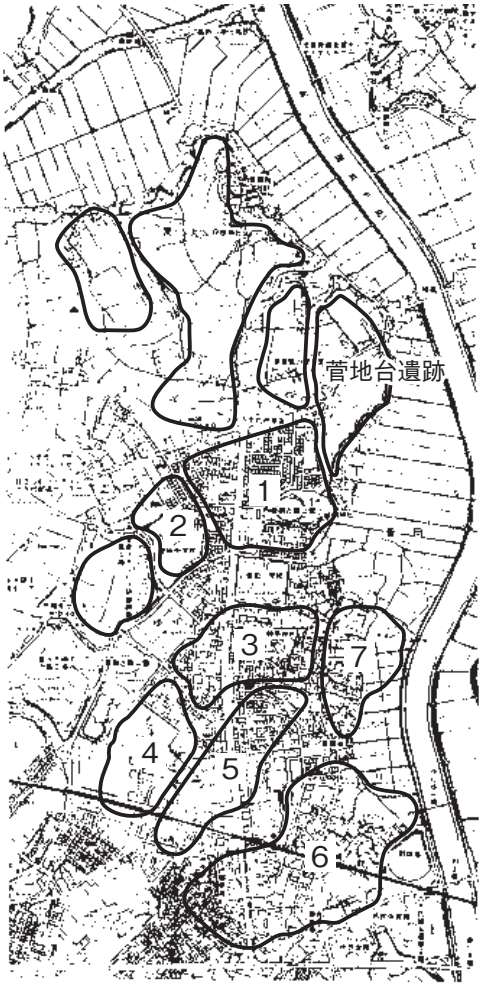
平成30年３月，関口　幸男　氏（以下事業者という）から，宅地造成を予定する旨で「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の文書が八千代市教育委員会に提出された。確認地は，市遺跡№218南海道遺跡の範囲内であり，土器の散布もみられることから，文化財保護法第93条の届出が必要な旨回答した。届出を受けて，協議の結果，確認調査を実施することとなり，生産緑地解除後の同年５月に確認調査を実施した。その結果，古墳時代・奈良平安時代の竪穴建物跡３棟等が検出され，その後の協議により記録保存の措置をとることとなり，委託契約書の締結等諸準備が整った平成30年７月本調査に着手した。

## 第２節　調査の方法と経過

調査期間は７月24日～８月30日で，７月24日～26日重機による表土剥ぎ，26日遺構プラン確定後，同日から竪穴建物跡等遺構調査に移行した。トータルステーションによる３㎝程度以上の土器片を基準とした遺物取り上げ及び平面図作成を並行して行い，進捗状況を考慮しつつ，土坑・カマド・炉等の調査を行った。個別遺構調査終了後に全体写真撮影を行い調査を完了とした。

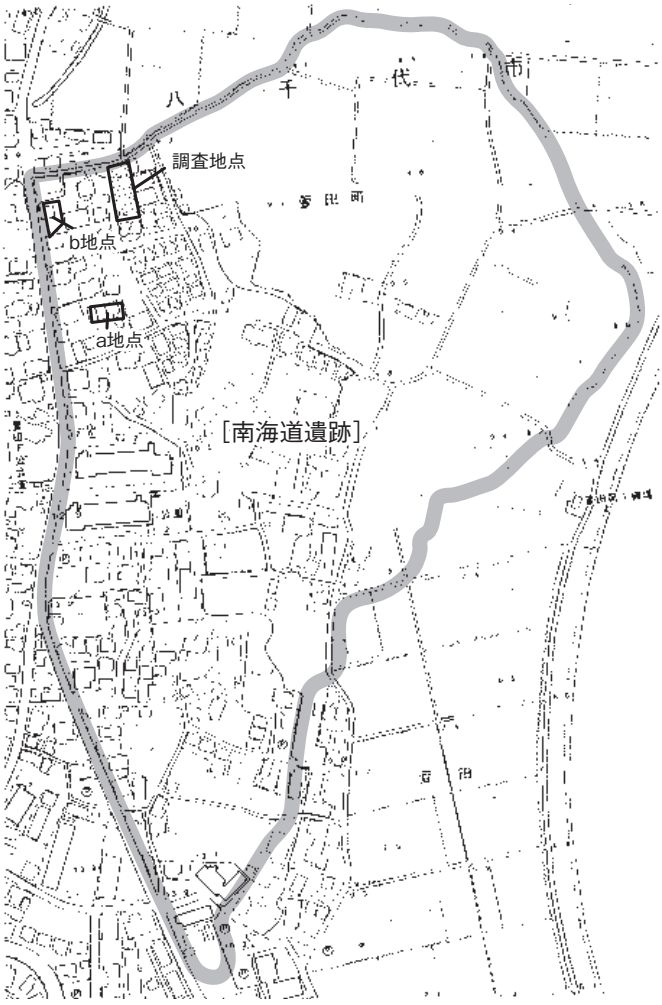
## 第３節　周辺遺跡と南海道遺跡のこれまでの調査成果について（第１図.２図）

本遺跡の西隣接地は，現ゆりのき台地区で，区画整理事業に先行して発掘調査が実施された。旧石器




1 権現後遺跡　2 ヲサル山遺跡　3 北海道遺跡
4 坊山遺跡　5 井戸向遺跡　6 白幡前遺跡　7 南海道遺跡

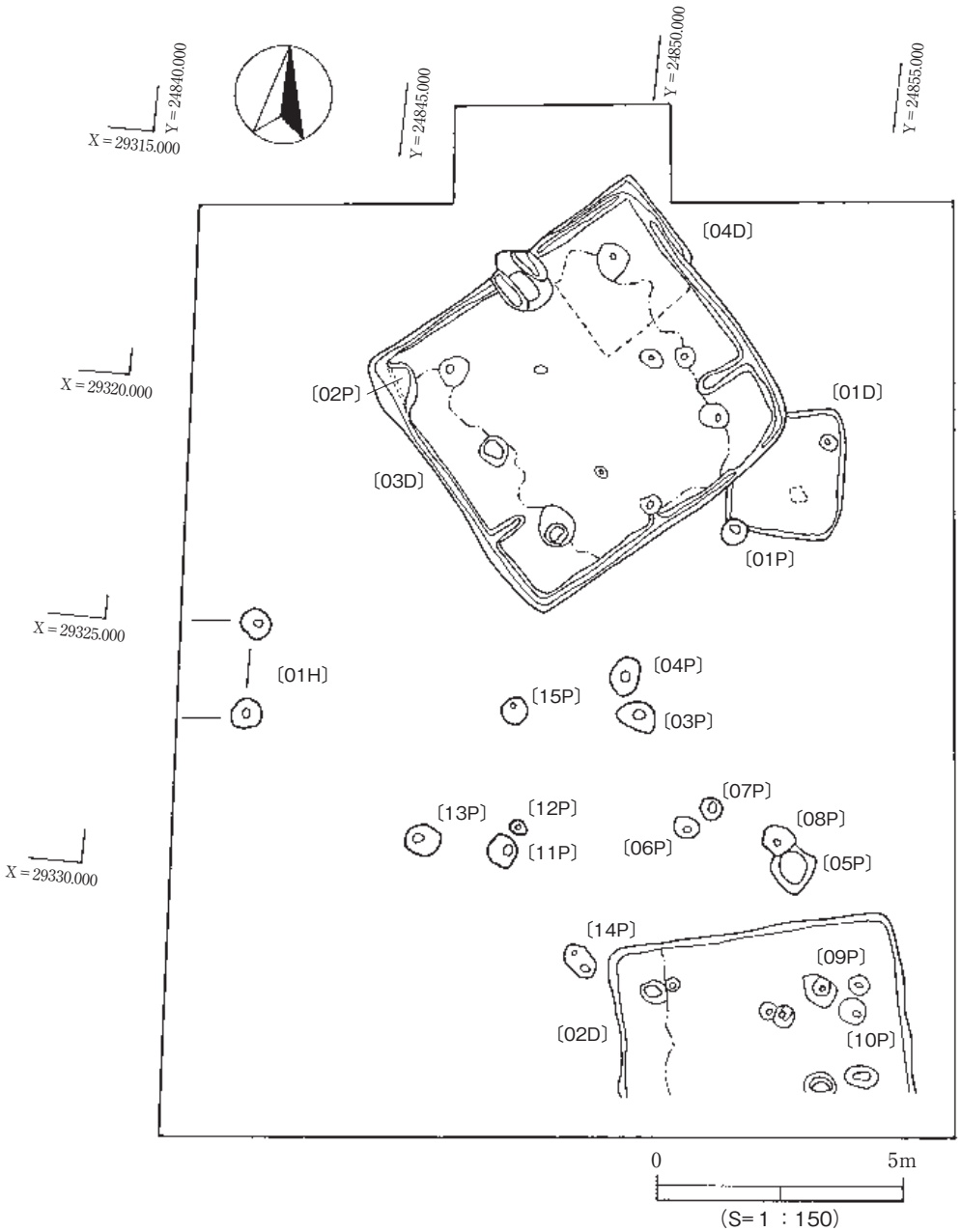
第１図　周辺の遺跡（S＝1：25,000）



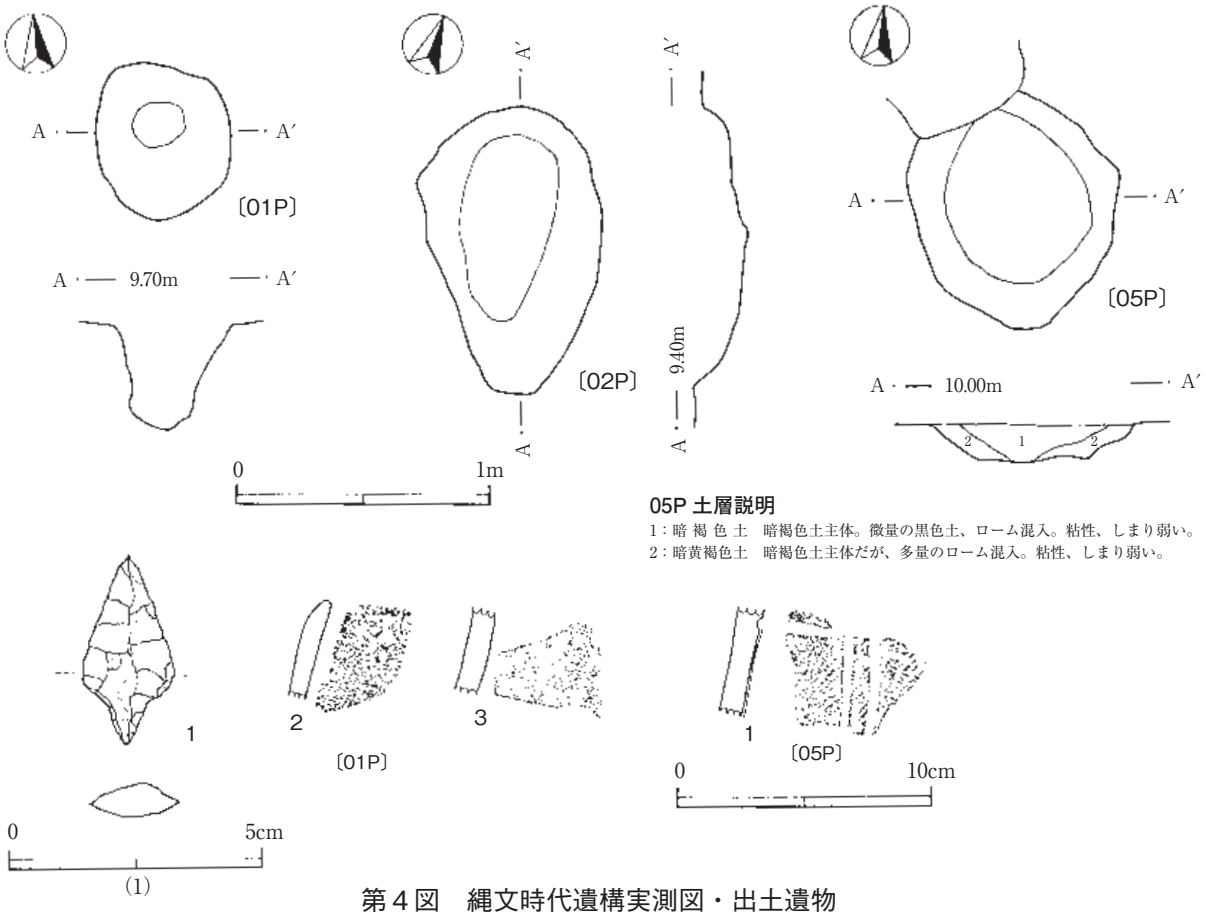

第２図　南海道遺跡調査区（S＝1：5,000）

時代から中世に至る各時代の遺構・遺物が発見され，特に旧石器時代各層の石器類の発見と奈良平安時代の集落にかかる遺構・遺物については特筆される成果を上げている。調査された６遺跡から，萱田遺跡群と呼称されている。南海道遺跡は，萱田遺跡群中の北海道遺跡に隣接し，地形上からも同一遺跡とみて差し支えない。北海道遺跡では，弥生時代後期・古墳時代中後期・奈良時代後半～平安時代前期の各期において竪穴建物跡を中心に発見されている。

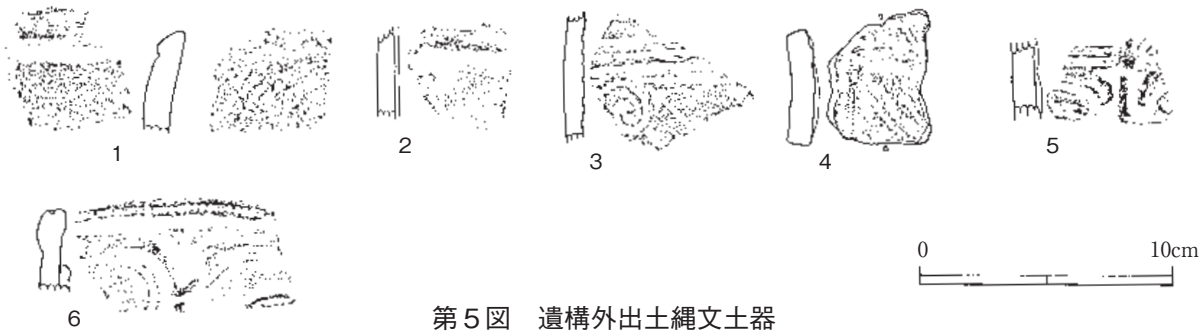
南海道遺跡については，これまでに２地点の確認調査が行われている。ａ地点においては，遺構は古墳時代後期の竪穴住居跡１軒，古墳時代土坑１基で，遺物は縄文時代前期土器片，平安時代須恵器甕片等が出土している。ｂ地点では，遺構は古墳時代後期の土坑１基，遺物は古墳時代後期土師器片のほか黒曜石剥片が出土している。




第３図　南海道遺跡ｃ地点遺構配置図




第４図　縄文時代遺構実測図・出土遺物




第５図　遺構外出土縄文土器

# 第２章　検出された遺構と遺物

## 第１節　縄文時代

今回の野外調査では縄文時代の土坑３基を検出した。また，整理作業による出土遺物の分類・接合の過程で，縄文時代中期初頭から前半の土器片等を抽出した。以下に報告する。

### ０１Ｐ（第４図・図版２）

**位置**：調査区北東01Dと重複。**確認面**：Ⅲ層上面。**長軸方位**：なし。**規模・平面形**：0.53m×0.52m×深さ0.42mの円形。**壁**：底面より角度をもって立ち上がる。**底面**：平坦面見られず。**覆土**：暗褐色土系の自然堆積。**遺物**：壁面上層より１の有茎石鏃と２.３の無文縄文前期土器２点が出土。１はチャートで，長3.7㎝，幅1.8㎝，重３g。**備考**：出土遺物から縄文前期のピットである。

**０２Ｐ**（第４図・図版２）

**位置**：調査区北西03Dと重複。**確認面**：Ⅲ層上面。**長軸方位**：N-24°-W　**規模・平面形**：1.14m×0.7m×深さ0.43mの楕円形。**壁**：底面より角度をもって立ち上がる。**底面**：若干の凹凸あり。**覆土**：暗褐色土系の人為堆積。**遺物**:なし。**備考**:03Dに切られ，覆土の締まり具合から縄文時代の土坑である。

**０５Ｐ**（第４図）

**位置**：調査区南東０８Ｐと重複。**確認面**：Ⅲ層上面。**長軸方位**：なし。**規模・平面形**：0.9m×0.8m×深さ0.19mの円形。**壁**：底面より角度をもって立ち上がる。**底面**：平坦である。**覆土**：暗褐色土系の自然堆積。**遺物**：覆土中より１の中期五領ヶ台式土器片が出土。**備考**：出土遺物から縄文中期のピットである。

**遺構外出土の縄文土器**（第５図・図版４）

１は前期末葉の口縁部片で，内面に緩い条。２～６は中期で，２.３は五領ヶ台式，２は隆帯＋連続爪形文，３は三角印刻文＋細線文，４は五領ヶ台Ⅱ式の土器片錘で5.1×3.7㎝，重25g，５は五領ヶ台Ⅱ～阿玉台Ⅰa式併行期で隆帯文が入組んでいる。６は阿玉台Ⅰa式の口縁部で，１列の角押文＋隆帯。

## 第２節　古墳・奈良時代

今回の調査においては竪穴建物跡４棟を検出した。内訳は古墳時代中期２棟，同後期１棟，奈良時代１棟である。なお，ピット・掘立柱建物跡については，第３節として扱った。以下報告する。

**０１Ｄ**（第６図・図版１.２）

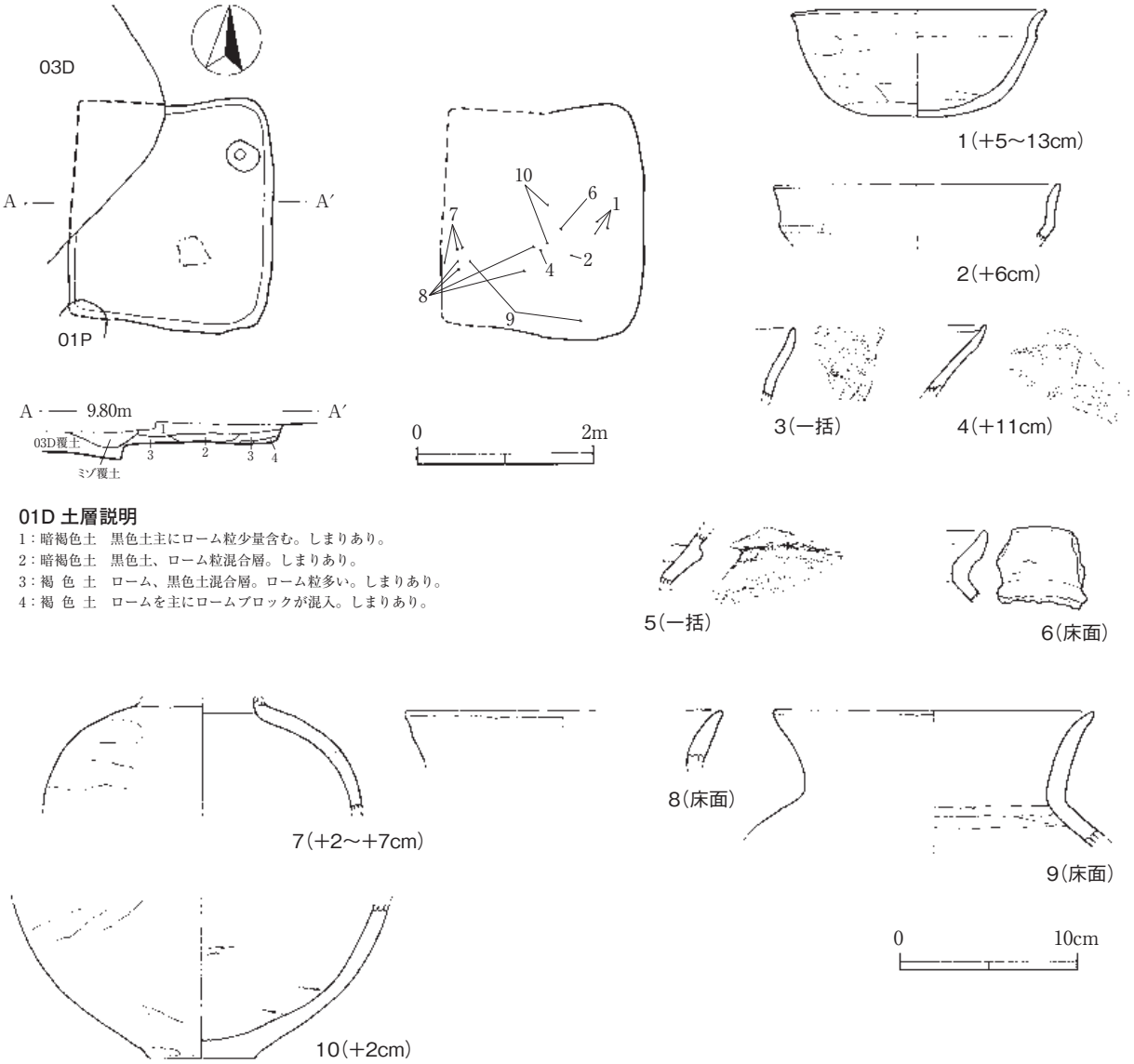
**位置**：調査区北東。**確認面**：Ⅲ層上面。**主軸方位**：ほぼ南北方向。**重複関係**：03Dに切られる。**規模・平面形**：2.6m×2.3m×深さ0.25mの隅丸方形。**壁**：床面から角度をもって立ち上がる。**床面**：ソフトローム中の地床で，中央南側に硬化面がみられる。**ピット**：北東隅に40㎝円形，深さ13㎝のピット１基。**覆土**：４層の自然堆積層である。**遺物出土状態**：トータルステーションで113点出土している。床面に近い高さからの出土が主体。掲載遺物はほぼ床面出土である。**備考**：遺物から古墳時代中期の遺構に想定される。

**０２Ｄ**（第７図・図版１.２）

**位置**：調査区南東隅。**確認面**：Ⅲ層上面。**主軸方位**：炉を奥としてほぼ東西方向である。**重複関係**：なし。**規模・平面形**：5.75m×3.7m以上×深さ0.25mの方形（推定）　**壁**：床面からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ソフトローム中の地床である。西壁側を除いて，硬化面が全体に見られる。**炉**：建物中央東壁際に作られる。75×40㎝，深さ12㎝の楕円形で，底面が少し焼けている。**ピット**：炉とは別に，不規則な配置で６基遺存する。深さは13～37㎝と浅く柱掘方ではない。**覆土**：５層に分層。暗褐色土系の自然堆積層である。また，床面に近い高さから焼土･粘土が検出されている。**遺物出土状態**:トータルステーションで260点出土しているが，覆土中からの出土が多い。北壁東側にやや集中している。出土遺物には時間差は見られない。**備考**：遺物から古墳時代中期の遺構に想定される。

**０３Ｄ**（第８～10図・図版１.３.４）

**位置**：調査区北側。**確認面**：Ⅲ層上面。**主軸方位**：N-35°-Wで西に振れている。**重複関係**：02P，01Dを切り，04Dに切られる。**規模・平面形**：6.75m×6.25m×深さ0.32mでやや東西に長い方形　**壁**：周溝から角度をもって立ち上がる。**周溝**：全周する。南壁側で東西で対となる位置に間仕切り溝が作られる。周溝・間仕切り溝ともに幅20㎝，深さ15㎝程度である。**床面**：ハードローム中の地床である。各柱穴を結んだ内側に硬化面がみられる。**カマド**：北壁ほぼ中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部は，袖前面に若干張り出す。掘り込みは35㎝程度であるが，カマド土層10は埋戻し層か。焚口部中央から奥部に火床部がある。カマド土層８が該当する。煙道立ち上がりは火床部最奥部から角度をもっ



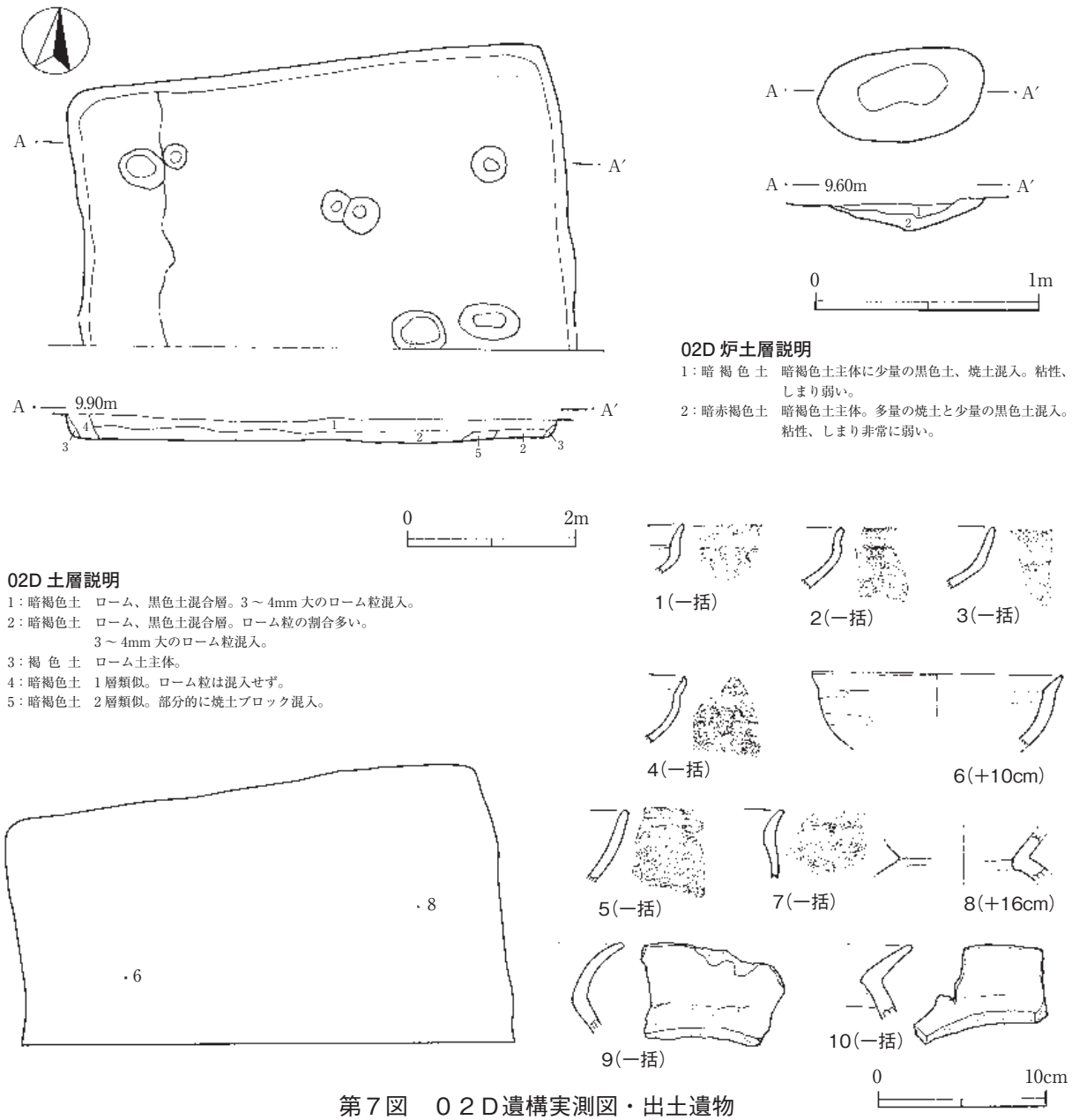

**01D 土層説明**

1：暗褐色土　黒色土主にローム粒少量含む。しまりあり。
2：暗褐色土　黒色土、ローム粒混合層。しまりあり。
3：褐 色 土　ローム、黒色土混合層。ローム粒多い。しまりあり。
4：褐 色 土　ロームを主にロームブロックが混入。しまりあり。

第６図　０１Ｄ遺構実測図・出土遺物

## ０１Ｄ遺物観察表（第６図・写真図版２）

| | 器種 | 部位 | 計測値（cm） | | | 色調 | 胎土 | 調整・文様等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 1 | 土師器<br>坏 | ほぼ完形<br>口縁部一部欠 | 6.1 | 14.4 | - | 橙褐色 | 長石，石英，雲母<br>白色粒 | 口縁部横なで。体部内外面ヘラ削り後なで。 |
| 2 | 土師器<br>坏 | 口縁部 1/3 | 3.2 | 16.0 | - | 赤褐色（赤彩） | 長石，白色粒<br>雲母 | 口縁部横なで。体部外面ヘラ削り。 |
| 3 | 土師器<br>坩 | 口縁部片 | - | - | - | 内外面赤褐色（赤彩） | 雲母，白色粒 | 内外面なで。 |
| 4 | 土師器<br>高坏 | 口縁部 1/8 | - | - | - | 内外面茶褐色<br>一部黒斑 | 雲母，赤色粒<br>石英，白色粒 | 内面なで。外面横位ヘラ削り後なで。 |
| 5 | 土師器<br>壺 | 口縁部片 | - | - | - | 外面橙褐色<br>内面茶褐色 | 赤色粒，石英 | 内外面なで。 |
| 6 | 土師器<br>小型壺 | 口縁部片 | - | - | - | 内外面橙褐色 | 雲母，長石 | 口縁部横なで。体部内外面なで。 |
| 7 | 土師器<br>壺 | 頸部～胴部 | 5.9 | 頸部径<br>6.0 | - | 外面淡橙褐色<br>内面暗褐色 | 雲母，石英，長石 | 外面横位ヘラ削り。内面なで。 |
| 8 | 土師器<br>甕 | 口縁部 1/3 | 3.0 | 18.0 | - | 茶褐色<br>一部黒斑 | 雲母，長石<br>石英，赤色彩 | 口縁部横なで。 |
| 9 | 土師器<br>甕 | 口縁～頸部全周 | 7.7 | 18.2 | - | 茶褐色～<br>淡茶褐色 | 白色粒<br>雲母，長石 | 口縁部横なで。<br>頸部～胴部内外面ヘラなで。 |
| 10 | 土師器<br>甕 | 底部 2/3,<br>胴部 1/3 | 8.8 | - | 6.0 | 暗茶褐色 | 雲母<br>赤色粒，白色粒 | 外面ヘラ削り後なで。内面ヘラなで。 |




**02D 炉土層説明**

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、焼土混入。粘性、しまり弱い。
2：暗赤褐色土　暗褐色土主体。多量の焼土と少量の黒色土混入。粘性、しまり非常に弱い。

**02D 土層説明**

1：暗褐色土　ローム、黒色土混合層。3 ～ 4mm 大のローム粒混入。
2：暗褐色土　ローム、黒色土混合層。ローム粒の割合多い。
　　3 ～ 4mm 大のローム粒混入。
3：褐 色 土　ローム土主体。
4：暗褐色土　1 層類似。ローム粒は混入せず。
5：暗褐色土　2 層類似。部分的に焼土ブロック混入。

第７図　０２Ｄ遺構実測図・出土遺物

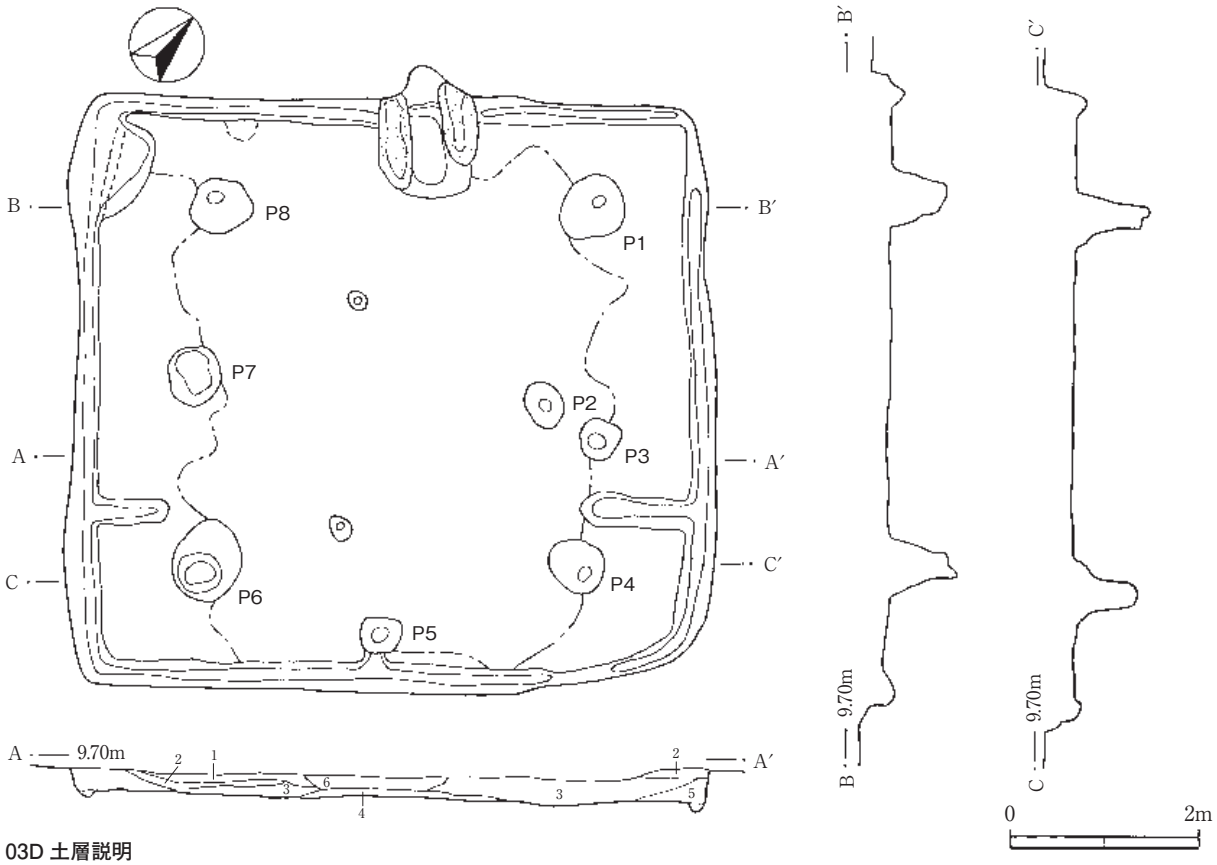
## ０２Ｄ遺物観察表（第７図・写真図版２）

| | 器種 | 部位 | 計測値（cm） | | | 色調 | 胎土 | 調整・文様等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 1 | 土師器<br>坏 | 口縁部片 | - | - | - | 内外面淡橙褐色 | 白色粒，雲母<br>石英 | 口縁部横なで。体部外面ヘラ削り後なで。<br>内面なで。 |
| 2 | 土師器<br>坏 | 口縁部片 | - | - | - | 外面茶褐色一部黒斑<br>内面淡橙褐色 | 長石，雲母 | 口縁部横なで。体部外面ヘラ削り後なで。<br>内面なで。 |
| 3 | 土師器<br>坏 | 口縁部片 | - | - | - | 赤褐色(内外面赤彩) | 雲母 | 口縁部横なで。体部外面ヘラ削り後なで。<br>内面なで。 |
| 4 | 土師器<br>坏 | 口縁部片 | - | - | - | 外面茶褐色煤付着<br>内面淡橙褐色 | 黒色粒，雲母 | 口縁部横なで。<br>体部外面横位ヘラ削り後なで。内面なで。 |
| 5 | 土師器<br>坏 | 口縁部片 | - | - | - | 内外面淡橙褐色 | 雲母，黒色粒 | 口縁部横なで。体部内外面なで。 |
| 6 | 土師器<br>坏 | 口縁部～<br>体部 1/5 | 遺存高<br>4.4 | 15.0 | - | 内外面橙褐色 | 長石，黒色粒 | 口縁部横なで。体部外面横位ヘラ削り。内面なで。 |
| 7 | 土師器<br>小型甕 | 口縁部 | - | - | - | 内外面暗茶褐色 | 雲母，長石 | 口縁部横なで。体部外面横位ヘラ削り。内面なで。 |
| 8 | 土師器<br>小型壺 | 頸部 1/3 | 遺存高<br>2.9 | 頸部径<br>8.0 | - | 内外面赤褐色～<br>茶褐色（赤彩） | 白色粒，赤色粒 | 内外面なで。 |
| 9 | 土師器<br>甕 | 口縁～頸部 1/5 | - | - | - | 内外面茶褐色 | 白色粒，雲母 | 口縁部横なで。胴部外面ヘラなで。内面なで。 |
| 10 | 土師器<br>壺 | 口縁～頸部 1/6 | - | - | - | 内外面茶褐色 | 長石，赤色粒<br>石英 | 口縁部横なで。胴部内面ヘラなで。<br>口唇部内面にすれ跡明瞭。 |

て一旦立ち上がり，そのあと角度を緩やかに変えて煙道端部に至る。煙道の切れ込みはU字形である。袖部の遺存は悪い。カマド土層４がカマド天井部である。**ピット**：P5が出入口ピットで45㎝×40㎝×深さ35㎝の円形で，P1.4.6.8が主柱穴で深さ60～80㎝の掘り込みである。P2.3.7は主柱穴軸上に位置しており，柱構成ピットで，深さは15～30㎝である。**覆土**：６層に分層。黒色土から暗褐色土主体のおおむね自然堆積層である。**遺物出土状態**：トータルステーションで374点出土している。床面及び床面から若干浮いた高さの出土がみられる。掲載遺物は04Dとの重複があり，遺物№12.13.15.17～24は04Dに帰属する。石製模造品が出土しているが，他の遺構から出土がみられないため，本遺構に帰属するものである。**備考**：遺物から古墳時代後期の遺構に想定される。

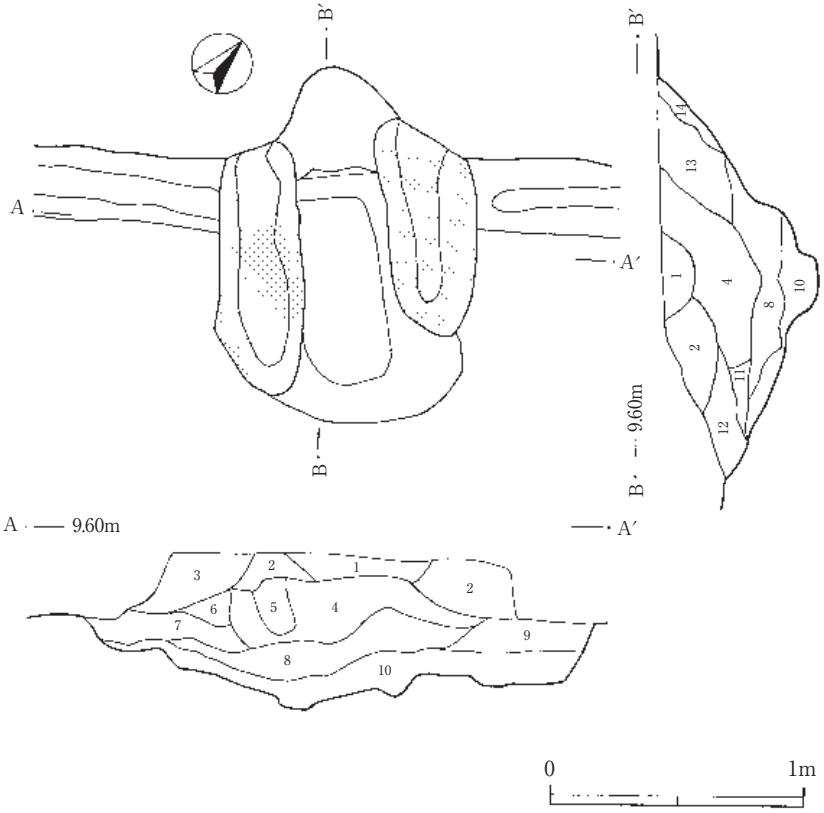
**０３Ｄ遺物観察表（第９.10 図・写真図版３．４）**

| | 器種 | 部位 | 計測値（cm） | | | 色調 | 胎土 | 調整・文様等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 1 | 土師器<br>坏 | 口唇部 1/2 欠 | 4.1 | 12.0 | - | 内外面橙褐色 | 白色粒，雲母 | 体部外面ヘラ削り後なで。部分的ヘラ磨き。<br>内面横位ヘラ磨き。 |
| 2 | 土師器<br>坏 | 口縁部～体部 1/5 | 3.3 | 12.2 | - | 外面黒褐色<br>内面暗褐色 | 白色粒，雲母 | 口縁部横なで。<br>体部外面横位ヘラ削り。内面なで。 |
| 3 | 土師器<br>坏 | 口縁部～体部 1/5 | 3.9 | 14.0 | - | 内外面橙褐色 | 白色粒，黒色粒<br>砂粒 | 口縁部横なで。体部外面ヘラ削り後なで。内面なで。<br>有段口縁杯。 |
| 4 | 土師器<br>埦 | 口縁～底部 1/4 | 7.1 | 12.0 | - | 淡橙褐色<br>内外面一部黒斑 | 長石，雲母<br>赤色粒 | 口縁部横なで。<br>体部外面横位～斜位ヘラ削り。内面なで。 |
| 5 | 土師器<br>小型鉢 | 口縁部～体部 1/6 | 5.0 | 10.0 | 6.4 | 内外面橙褐色<br>一部黒斑 | 白色粒，雲母 | 口縁部横なで。<br>体部外面ヘラ削り。内面なで。底部外面木葉痕。 |
| 6 | 土師器<br>高坏 | 坏部～脚部全周 | 遺存高<br>2.6 | 脚部径<br>4.6 | - | 内外面暗褐色 | 白色粒，長石<br>雲母，赤色粒 | 外面なで。<br>内面ヘラ磨き（細かい）。漆仕上げ処理か。 |
| 7 | 土師器<br>高坏 | 脚部～坏部全周 | 遺存高<br>5.5 | 脚部径<br>5.5 | - | 淡橙色～暗茶褐色 | 長石，白色粒<br>雲母 | 坏部内面細かなヘラ磨き後漆仕上げ処理。<br>脚部外面縦位ヘラ削り。内面ヘラなで。 |
| 8 | 土師器<br>高坏 | 脚部全周<br>坏部 1/4 | 遺存高<br>10.7 | 脚部径<br>3.4 | - | 橙褐色 | 白色粒，長石<br>雲母，赤色粒 | 坏部外面ヘラ削り後なで。内面ヘラなで。<br>脚部外面縦位の細かいヘラ削り。 |
| 10 | 土師器<br>壺 | 口縁部 1/5 | - | - | - | 淡赤褐色 | 長石，白色粒<br>雲母 | なで整形。口縁部内面に明瞭な稜。 |
| 11 | 土師器<br>甕 | 口縁部 1/6 ～胴部 | 12.5 | 18.0 | - | 淡橙褐色～暗褐色 | 雲母，石英，長石<br>赤色粒，砂粒 | 口縁部内外面指頭状圧痕。横なで。<br>胴部外面横位ヘラ削り後なで。内面ヘラなで。 |
| 12 | 土師器<br>高台付埦 | 口縁部～高台 1/4 | 7.8 | 20.0 | - | 内外面橙褐色 | 白色粒 | 外面ヘラ削り後なで。口唇部内面に沈線。<br>内面上位斜向暗文。中～下位放射状暗文。搬入品。 |
| 13 | 須恵器<br>坏 | 口縁部 1/6 | 3.8 | 13.4 | - | 内外面灰白色 | 黒色粒，白色粒<br>ち密 | ロクロ成形。 |
| 15 | 須恵器<br>鉢 | 口縁部 | 2.8 | 16.0 | - | 暗青灰色 | 白色粒，石英 | ロクロ成形。口唇部内削ぎ状。 |
| 17 | 須恵器<br>瓶底部 | 高台部 1/2 | 1.1 | 9.0 | - | 灰白色 | ち密 | ロクロ成形。貼付け高台。 |
| 18 | 須恵器<br>蓋 | 紐，天井部 | 1.5 | つまみ径<br>2.5 | - | 淡青灰色 | 白色粒ち密 | ロクロ成形。天井部回転ヘラ削り。 |
| 19 | 須恵器<br>蓋 | 口縁部～体部 1/4 | 1.9 | 12.6 | - | 淡青灰色 | 黒色粒，長石ち密 | ロクロ成形。天井部回転ヘラ削り。 |
| 20 | 須恵器<br>蓋 | 末端部 | - | - | - | 淡青灰色 | 白石粒ち密 | ロクロ成形。内面明瞭な稜。 |
| 21 | 須恵器<br>蓋 | 末端部 | - | - | - | 青灰色 | 長石ち密 | ロクロ成形。内面立ち上がる明瞭な稜。 |
| 22 | 須恵器<br>蓋 | 末端部 | - | - | - | 淡黄灰色 | 雲母多含 | ロクロ成形。外面回転ヘラ削り。内面細い稜。<br>常陸産。 |
| 23 | 須恵器<br>小型壺 | 頸部～体部 | - | - | - | 灰褐色 | 白石粒，長石 | 外面縦位叩き目文。内面ヘラなで。 |
| 24 | 土師器<br>甕 | 口縁部～体部 1/4 | 10.2 | 23.5 | - | 淡橙褐色 | 長石多含<br>雲母，石英 | 口縁部横なで。口唇部つまみあげ。<br>胴部外面ヘラなで。内面頸部ヘラなで。他はなで。 |
| 25 | 石製品<br>軽石 | 完形 | 長<br>6.1 | 幅<br>4.7 | 厚さ<br>3.8 | 重さ<br>34g | | 8 面において平坦面見られる。上面中央に刃物痕。 |
| 26 | 石製品<br>軽石 | 完形 | 長<br>5.0 | 幅<br>4.4 | 厚さ<br>3.2 | 重さ<br>22g | | 下面に 1㎝程度の刃物痕２ヶ所あり。<br>下面は平坦面見られる。 |
| 27 | 石製品<br>軽石 | 完形 | 長<br>3.2 | 幅<br>3.0 | 厚さ<br>2.0 | 重さ<br>6g | | 上面に平坦面が見られる。 |
| 28 | 石製模造品<br>勾玉 | 完形 | 長<br>3.4 | 幅<br>1.7 | 厚さ<br>0.3 | 重さ<br>3g | | 成品。<br>孔径 1.8mm。穿孔部上端 2.2mm。両面・側面研磨。 |
| 29 | 石製模造品<br>有孔円板 | 完形 | 長<br>2.2 | 幅<br>2.1 | 厚さ<br>0.3 | 重さ<br>2g | | 成品。<br>孔径 2.1mm。穿孔部上端 4.1mm。両面・側面研磨。 |
| 30 | 石製模造品<br>有孔円板 | 側縁部一部欠 | 長<br>2.2 | 幅<br>2.0 | 厚さ<br>0.4 | 重さ<br>3g | | 成品。<br>孔径 1.8mm。穿孔部上端 2.5mm。両面・側面研磨。 |
| 31 | 石製模造品<br>有孔円板 | 完形 | 長<br>2.0 | 幅<br>2.0 | 厚さ<br>0.4 | 重さ<br>3g | | 成品。<br>孔径 1.2mm。穿孔部上端 3.1mm。両面・側面研磨。 |
| 32 | 石製模造品<br>剣形品 | 基部一部欠 | 長<br>3.3 | 幅<br>1.7 | 厚さ<br>0.3 | 重さ<br>2g | | 成品。<br>孔径 1.5mm。穿孔部上端 1.8mm。両面・側面研磨。 |
| 33 | 石製模造品<br>剣形品 | 先端部一部欠 | 長<br>3.1 | 幅<br>2.0 | 厚さ<br>0.5 | 重さ<br>4g | | 成品。<br>孔径 1.7mm。両面・側面研磨。 |
| 34 | 石製模造品<br>剣形品 | 完形<br>側縁部一部欠 | 長<br>5.4 | 幅<br>2.5 | 厚さ<br>0.7 | 重さ<br>13g | | 成品。<br>孔径 1.4mm。穿孔部上端 2.3mm。両面・側面研磨。 |
| 35 | 石製模造品<br>素材 | 完形 | 長<br>6.9 | 幅<br>3.4 | 厚さ<br>1.1 | 重さ<br>29g | | 剣形品形割段階か。<br>右側面切削による整形。 |
| 36 | 石製模造品<br>素材 | 完形 | 長<br>5.7 | 幅<br>4.5 | 厚さ<br>1.5 | 重さ<br>46g | | 勾玉形割段階か。<br>左側面切削による整形。 |
| 37 | 石製模造品<br>剣形品 | 完形 | 長<br>3.5 | 幅<br>1.3 | 厚さ<br>0.5 | 重さ<br>2g | | 未成品。穿孔なし。<br>両面・側面研磨。鎬有。 |




### 03D 土層説明

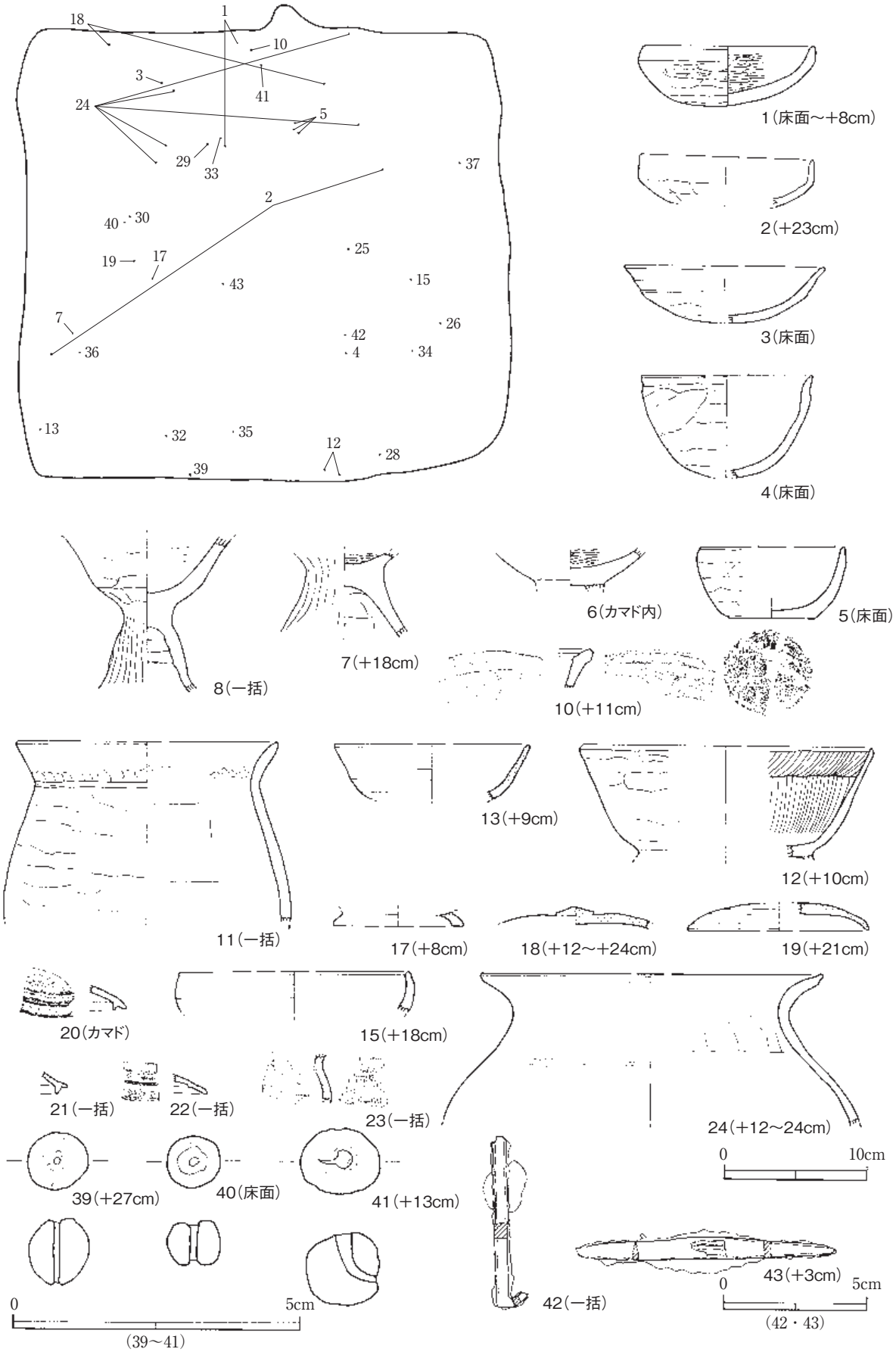
1：暗褐色土　暗褐色土主体に少量のロームと微量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。
2：黒褐色土　黒色土主体に少量の暗褐色土混入。粘性、しまり弱い。
3：暗褐色土　暗褐色土主体に少量のロームと微量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。
4：黒褐色土　黒色土主体に微量の暗褐色土、ローム粒、焼土粒が粗く混入。
5：暗褐色土　暗褐色土主体に少量のローム混入。粘性、しまり弱い。
6：暗褐色土　暗褐色土主体に少量のローム、黒色土、ロームブロック混入。粘性、しまり弱い。



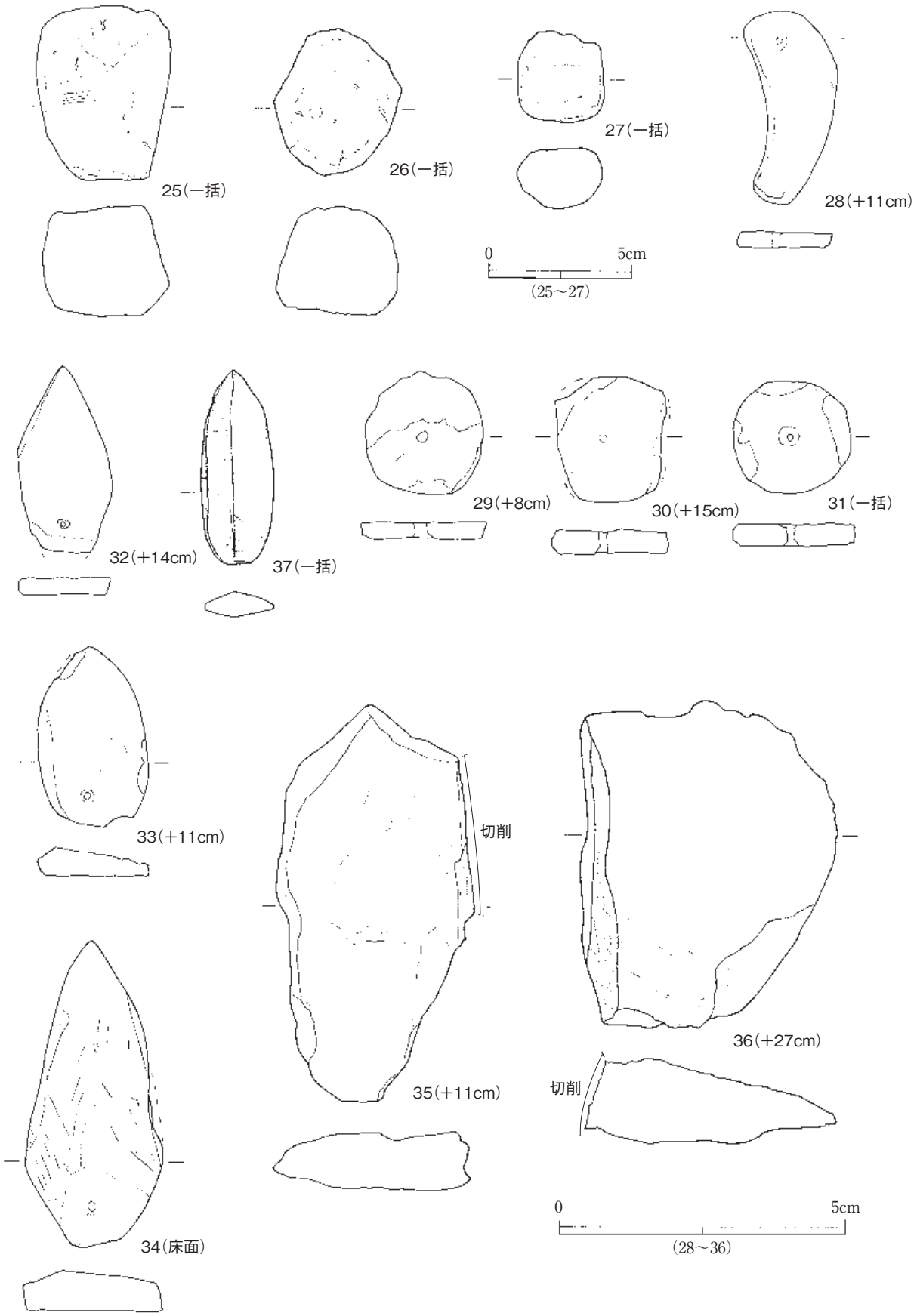

### 03D カマド土層説明

1：暗褐色土　暗褐色土主体に少量の白色粘土、微量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。
2：暗褐色土　暗褐色土主体に少量の黒色土、微量の焼土混入。粘性、しまり弱い。
3：暗褐色土　暗褐色土主体に微量の黒色土、白色粘土混入。粘性、しまり弱い。
4：灰褐色土　白色粘土主体に少量の暗褐色土混入。カマド天井部。粘性、しまり弱い。
5：暗赤褐色土　焼土主体に少量の暗褐色土が粗く混入。粘性、しまり弱い。
6：暗褐色土　暗褐色土主体に少量の黒色土、微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
7：黒黄褐色土　黒色土主体に少量の暗褐色土、多量のロームブロック混入。粘性、しまり弱い。
8：暗赤褐色土　焼土主体。多量の暗褐色土と少量の白色粘土混入。粘性、しまり弱い。
9：暗褐色土　暗褐色土主体。少量の白色粘土、微量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。
10：暗黄褐色土　暗褐色土主体。多量のローム、少量のロームブロック混入。粘性、しまり弱い。
11：暗褐色土　暗褐色土主体に微量の黒色土、白色粘土混入。粘性、しまり弱い。
12：暗褐色土　暗褐色土主体に少量の白色粘土混入。粘性、しまり弱い。
13：暗赤褐色土　暗褐色土主体。多量の焼土、少量のローム混入。煙道部のセクション。粘性なし。しまり強い。
14：暗黄褐色土　ローム主体。少量の暗褐色土混入。粘性、しまり弱い。

第８図　０３Ｄ遺構実測図



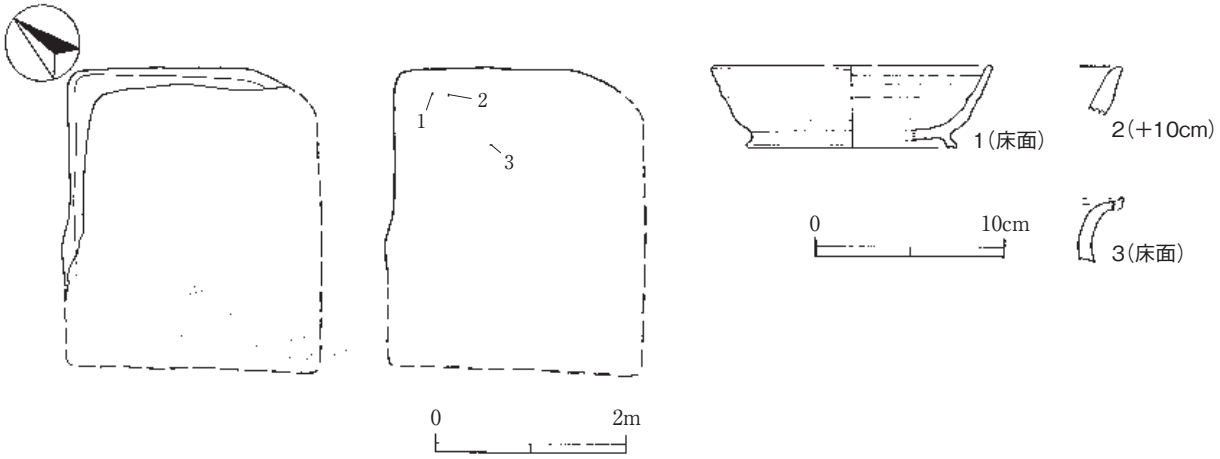

第９図　０３Ｄ出土遺物（１）




第10図　０３Ｄ出土遺物（２）

**０３Ｄ遺物観察表（第９.10 図・写真図版３．４）**

| | 器種 | 部位 | 計測値（cm） | | | 色調 | 胎土 | 調整・文様等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 39 | 土製品<br>土玉 | 完形 | 長<br>1.1 | 幅<br>1.1 | 重さ<br>1g | 淡橙褐色 | | なで整形。 |
| 40 | 土製品<br>土玉 | 完形 | 長<br>0.7 | 幅<br>0.9 | 重さ<br>1g | 漆黒色 | | なで整形。<br>上下穿孔周縁面取り。 |
| 41 | 土製品<br>土玉 | 完形 | 長<br>1.4 | 幅<br>1.4 | 重さ<br>2g | 淡赤褐色 | | なで整形。<br>片側穿孔。穿孔は斜め方向。 |
| 42 | 鉄製品<br>紡輪 | 一部 | 遺存長<br>6.0 | 幅<br>0.5 | 重さ<br>5g | | | 紡輪下側基部遺存。断面四角形。 |
| 43 | 鉄製品<br>刀子 | 一部 | 遺存長<br>9.0 | 幅<br>0.8 | 厚さ<br>0.2 | 重さ<br>11g | | 錆化が著しく遺存悪い。木質部中央に遺存。 |




第11図　０４Ｄ遺構実測図・出土遺物

**０４Ｄ遺物観察表（第 11 図・写真図版４）**

| | 器種 | 部位 | 計測値（cm） | | | 色調 | 胎土 | 調整・文様等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 1 | 須恵器<br>高台付坏 | 口縁部～<br>底部 1/4 | 4.3 | 14.8 | 11.2 | 淡青灰色 | ち密 | ロクロ成形。内外面ロクロなで。 |
| 2 | 土師器<br>甕 | 口縁部片 | - | - | - | 暗褐色 | 白色粒，雲母 | 口縁部横なで。 |
| 3 | 土師器<br>甕 | 口縁部片 | - | - | - | 淡橙褐色 | 雲母，石英 | 常陸型甕。 |

**０４Ｄ**（第11図・図版４）

**位置**：調査区北側。**確認面**：Ⅲ層上面。**主軸方位**：N-64°-E方向。**規模・平面形**：3.2m（想定）×2.7m（想定）×深さ0.27mの長方形。壁のみの検出で，大半が03D覆土中に含まれていたため詳細は不明である。遺物の時期差と粘土範囲から規模を想定した。**壁**：東壁，北壁の一部分のみ遺存。**床面**：部分的検出で不詳。**カマド**：粘土範囲からの想定で隅カマドか。**遺物出土状態**：トータルステーションで13点出土。**備考**：遺物から奈良時代初頭の遺構に想定される。

## 第３節　ピット・０１Ｈ

ピット12基，掘立柱建物跡１棟分を検出した。遺構に伴う明確な出土状況を示す遺物はないが，覆土の状況から判断し，奈良平安時代に属すると考える。なお，確認面は全てソフトローム上面である。

**０３Ｐ**（第12図）

**位置**：調査区中央。**方位**：無。**規模・平面形**：0.77m×0.64m×深さ0.52mの不整円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：６層。暗褐色土系の自然堆積層。**所見**：用途不明。

**０４Ｐ**（第12図）

**位置**：調査区中央で03Pに隣接。**方位**：無。**規模・平面形**：0.7m×0.59m×深さ0.54mの円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：３層。暗褐色土系の自然堆積。**所見**：明確な掘り込みを持つが，用途不明。

０６Ｐ（第12図）

**位置**：調査区中央やや南側。07P隣接。**方位**：無。**規模・平面形**：0.65m×0.48m×深さ0.39mの円形。**底面**：平坦。**覆土**：３層。暗褐色土系の自然堆積。**所見**：明確な掘り込みを持つ。用途不明。

０７Ｐ（第12図）

**位置**：調査区中央やや南側。06P隣接。**方位**：無。**規模・平面形**：0.44m×0.42m×深さ0.52mの円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：４層。全体に締りなく埋戻しか。**所見**：明確な掘り込みを持つ。用途不明。

０８Ｐ（第12図）

**位置**：調査区中央やや南側。05Pを切る。**方位**：無。**規模・平面形**：0.61m×0.57m×深さ0.52mの円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：６層。暗褐色土系の埋戻しか。**所見**：明確な掘り込みを持つ。用途不明。

０９Ｐ（第12図）

**位置**：調査区南側。02Dを切る。**方位**：無。**規模・平面形**：0.64m×0.52m×深さ0.73mの円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：５層。全体に締りないが，掘立柱建物掘方の土層に近似する。**所見**：掘立柱建物掘方と考えるが，方位，規模について不明である。

１０Ｐ（第12図）

**位置**：調査区南側。02Dを切る。**方位**：無。**規模・平面形**：0.6m×0.54m×深さ0.5mの円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：３層。黒褐色土系の自然堆積層。**所見**：明確な掘り込みを持つが，用途不明。

１１Ｐ（第13図）

**位置**：調査区中央やや南側。12P隣接。**方位**：無。**規模・平面形**：0.62m×0.55m×深さ0.61mの円形。**底面**：偏って掘られる。**覆土**：４層。全体に締りないが，人為堆積層か。**所見**：掘立柱建物掘方の堆積を示すと考えるが，方位，規模について不明である。

１２Ｐ（第13図）

**位置**：調査区中央やや南側。11P隣接。**方位**：無。**規模・平面形**：0.32m×0.29m×深さ0.34mの円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：３層。人為堆積層か。**所見**：用途不明。

１３Ｐ（第13図）

**位置**：調査区中央やや南側。**方位**：無。**規模・平面形**：0.64m×深さ0.43mの円形。**底面**：やや凹凸がある平坦面。**覆土**：４層。暗褐色土系の自然堆積。**所見**：明確な掘り込みを持つが，用途不明。

１４Ｐ（第13図・図版２）

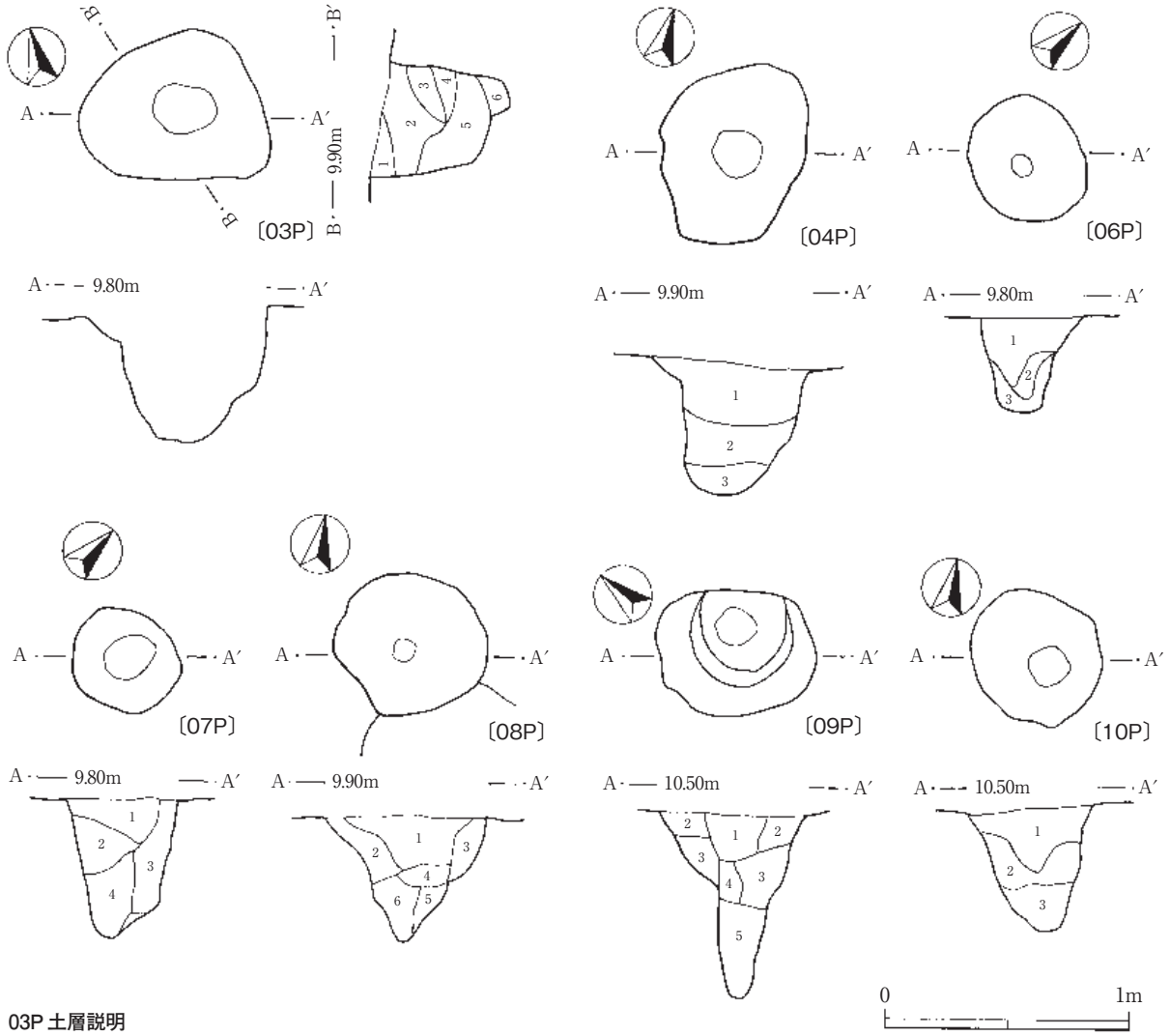
**位置**：調査区南側。02Dに隣接。**長軸方位**：N-32°－W。**規模・平面形**：0.72m×0.49m×深さ0.49mの楕円形。**底面**：ほぼ平坦。**覆土**：４層。埋まり方から人為堆積層か。**所見**：明確な掘り込みを持つが，用途不明。

１５Ｐ（第13図）

**位置**：調査区中央。**方位**：なし。**規模・平面形**：0.7m×0.6m×深さ0.6mの円形。**底面**：丸底形状。**覆土**：５層。暗褐色土系の自然堆積。**所見**：明確な掘り込みを持つが，用途不明。

０１Ｈ（第14図）

**位置**：調査区中央西際。**長軸方位**：東西方向で，西は調査区外。**規模**：梁行1.4m×桁行1.4m以上×掘方の深さ0.7m。掘方は0.45mの円形。**覆土**：２口の内１口で，掘立柱建物の柱立ち腐れ状況を確認している。**所見**：東西方向の掘立柱建物跡と想定した。




### 03P 土層説明

1：暗黄褐色土　ローム主体に少量の暗褐色土混入。粘性弱い。しまりややあり。
2：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、焼土粒含む。粘性、しまり弱い。
3：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
4：黒 褐 色 土　黒色土主体に少量の暗褐色土、少量のローム粒混入。粘性、しまり弱い。
5：暗黄褐色土　ローム主体に少量の暗褐色土が粗く混入。粘性、しまり弱い。
6：暗黄褐色土　ローム主体に少量の黒色土が粗く混入。粘性、しまり弱い。

### 04P 土層説明

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主に少量の黒色土、微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
2：暗黄褐色土　暗褐色土、ローム混合層。粘性、しまり弱い。
3：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。粘性、しまり弱い。

### 06P 土層説明

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に微量の黒色土混入。粘性弱い。しまりややあり。
2：黒黄褐色土　黒色土主体に微量の暗褐色土、少量のロームブロック混入。粘性、しまり弱い。
3：暗黄褐色土　暗褐色土、ローム混合層。粘性、しまり弱い。

### 07P 土層説明

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に微量のローム、黒色土混入。粘性、しまりなし。
2：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量のローム、黒色土混入。粘性、しまり弱い。
3：暗黄褐色土　ローム主体に微量の暗褐色土混入。粘性、しまり弱い。
4：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。多量の黒色土、少量のローム粒混入。粘性、しまり弱い。

### 08P 土層説明

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主に少量の黒色土、微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
2：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。微量のローム、少量のローム粒混入。粘性、しまり弱い。
3：暗黄褐色土　暗褐色土、ローム混合層。粘性、しまり弱い。
4：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
5：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量のローム、微量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。
6：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。多量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。

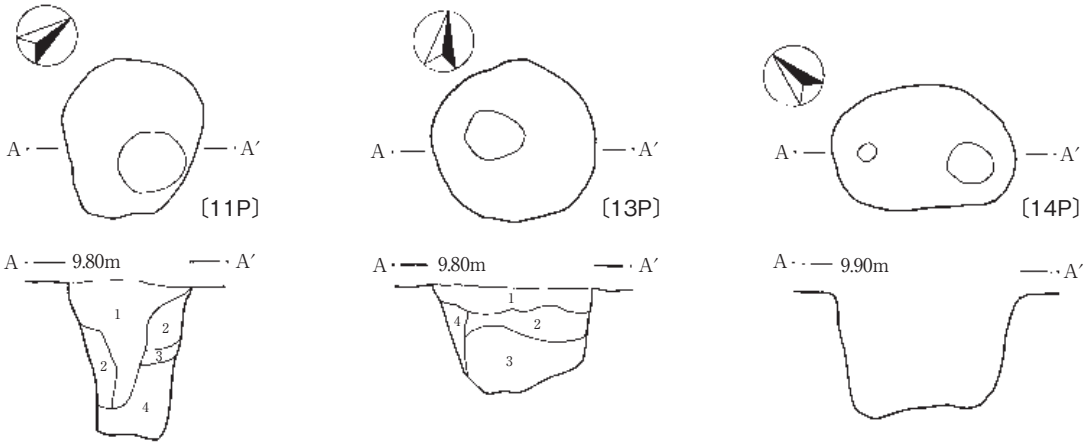
### 09P 土層説明

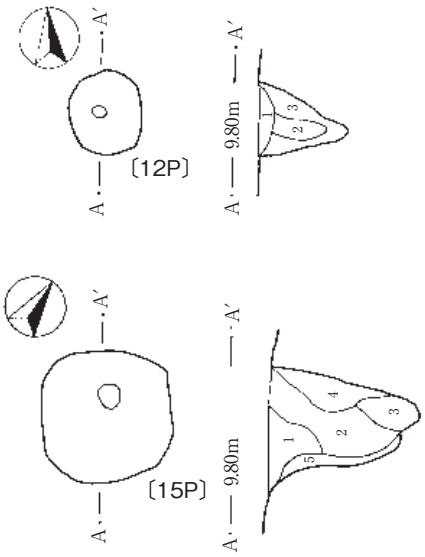
1：黒 褐 色 土　黒色土主体。少量の暗褐色土、微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
2：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。微量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
3：暗黄褐色土　暗褐色土主体。多量のローム、少量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。
4：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。微量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
5：黒 褐 色 土　黒色土主体。微量の暗褐色土混入。粘性、しまり弱い。

### 10P 土層説明

1：黒 褐 色 土　黒色土主体。少量の暗褐色土と微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
2：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。少量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
3：黒 褐 色 土　黒色土主体に微量の暗褐色土、ローム混入。粘性、しまり非常に弱い。

第12図　ピット遺構実測図（1）




**11P 土層説明**

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。少量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
2：暗黄褐色土　ローム主体。少量の暗褐色土粗く混入。粘性、しまり弱い。
3：黒黄褐色土　黒色土主体に少量の暗褐色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
4：暗黄褐色土　暗褐色土主体だが、多量のローム混入。粘性、しまり弱い。

**12P 土層説明**

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に微量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
2：暗黄褐色土　ローム主体に少量の暗褐色土混入。粘性、しまり弱い。
3：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量のローム混入。粘性、しまり弱い。

**13P 土層説明**

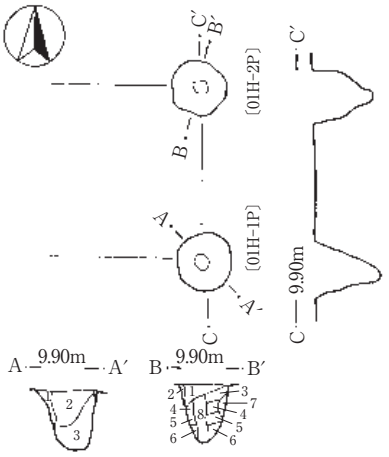
1：黒 褐 色 土　黒色土主体。少量の暗褐色土混入。粘性、しまり弱い。
2：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。少量のローム粒混入。粘性、しまり強い。
3：暗 褐 色 土　暗褐色土主体とし、微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
4：暗黄褐色土　ローム主体に微量の暗褐色土混入。壁崩壊層。粘性、しまり弱い。

**15P 土層説明**

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に微量の黒色土、少量のローム混入。粘性、しまり弱い。
2：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
3：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
4：暗黄褐色土　暗褐色土主体だが、多量のローム粗く混入。粘性、しまり弱い。
5：暗黄褐色土　ローム主体に少量の暗褐色土混入。粘性、しまり弱い。

第13図　ピット遺構実測図（２）

0　1m




**01H-1P 土層説明**

1：暗 褐 色 土　多量のロームに少量の暗褐色土混入。粘性、しまりややあり。
2：暗 黒 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、ローム混入。粘性、しまり弱い。
3：黒 褐 色 土　黒色土主体に少量の暗褐色土、ローム粒混入。粘性、しまり弱い。

**01H-2P 土層説明**

1：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量のローム、微量の黒色土混入。粘性、しまり弱い。
2：暗黄褐色土　ローム主体に微量の暗褐色土混入。壁崩壊層。粘性弱い。しまり強い。
3：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、微量のローム混入。粘性、しまり弱い。
4：暗黄褐色土　ローム主体に少量の暗褐色土混入。粘性、しまりややあり。
5：暗 褐 色 土　暗褐色土主体に少量の黒色土、ローム混入。粘性、しまりややあり。
6：暗黄褐色土　ローム、暗褐色土混合層。粘性、しまりややあり。
7：暗黄褐色土　ローム主体に微量の暗褐色土混入。壁崩壊層。粘性ややあり。しまり強い。
8：暗 褐 色 土　暗褐色土主体。多量の黒色土が混入。粘性、しまり弱い。

第14図　０１Ｈ遺構実測図

0　2m

# 第3章　ま　と　め

**縄文時代**

今回の調査においては，遺構についてはピット３基のみであるが，遺物は中期初頭～前半の土器片等がまとまって出土した。重量にして，2,267ｇである。内訳は，石器等はなく，土器片・土器片錘・土製円盤となっている。財団法人千葉県文化財センター調査で，隣接の北海道遺跡においても，竪穴住居跡等の遺構は検出されていない。本遺跡はまだ３地点のみの調査であり，面的にも限定された一部分の情報であるが，北海道遺跡を含めた中では「定住エリア」ではなく，「採集活動の場」として機能したと現時点では考えておきたい。

**弥生時代**

後期土器片が３点出土したのみである。北海道遺跡においては，７haの調査区において竪穴住居跡が１軒のみ検出されている。須久茂谷津を隔てた北側対岸の権現後遺跡においては73軒検出で，立地上の特異性を示していると言える。北海道遺跡は，標高22m～10mの下総下位面から千葉段丘面に遺構が展開する。権現後遺跡は，標高約22m程度の広い下総下位段丘面に位置しており，標高の高い部分に弥生時代の遺構が占地する。以上の傾向が北海道遺跡報文中で指摘されており，そのことから，本遺跡エリアでの同時代の遺構は希薄となることが想定されよう。

**古墳時代**

中期竪穴建物跡２棟（01D・02D）は，土器の年代観から５世紀半ば～後半である。北海道遺跡では，調査区北側の須久茂谷津に面した標高10～13mの千葉段丘面を中心に22軒が展開している。内12軒は石製模造品工房跡である。今回調査区はその東側に連なる部分にあたり，別群を形成するものである。

後期竪穴建物跡１棟（03D）は，口辺部が直立した坏形態，黒色処理を施した高坏，退化した有段口縁坏等の要素から７世紀前半である。北海道遺跡においては，中期と同様に須久茂谷津に面した標高10～13mの千葉段丘面に７軒がⅠ～Ⅲ群を形成している。今回検出の１棟は，北海道遺跡の一番近い最北東部のⅠ群から100mの距離があり，別群と想定できる。この遺構が単独棟か複数棟により構成されているかは，今後の調査による。

**奈良時代**

当該期の竪穴建物跡１棟（04D）は，03D覆土中検出で壁の一部分のみの遺存であり，遺物からの情報によるところが大きい。出土土器の年代観から，７世紀末葉～８世紀前半の所産である。北海道遺跡では，奈良平安時代竪穴住居跡114軒，掘立柱建物跡10棟等がⅠ～Ⅷ群により形成される。竪穴住居跡の内，８世紀前半まで遡る遺構はなく，８世紀半ば以降10世紀代の時間幅で集落は展開する。萱田遺跡群全体でみても，当該期の遺構は少ない。今後の調査により，北海道遺跡の千葉段丘面での奈良平安時代集落の形成が，南海道遺跡にどう展開するか判明していくことになる。

参考文献

1984　（財）千葉県文化財センター「八千代市権現後遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－」

1985　（財）千葉県文化財センター「八千代市北海道遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－」

2012　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書平成23年度」

2013　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書平成24年度」

図版１遺構［遺跡全景・０１Ｄ～０３Ｄ］

０１Ｄ遺物出土状況（南から）

０１Ｄ全景（南から）

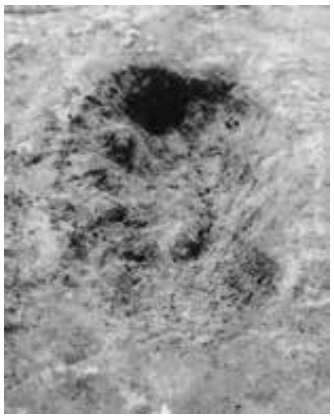
０２Ｄ遺物出土状況（西から）

０２Ｄ全景（西から）

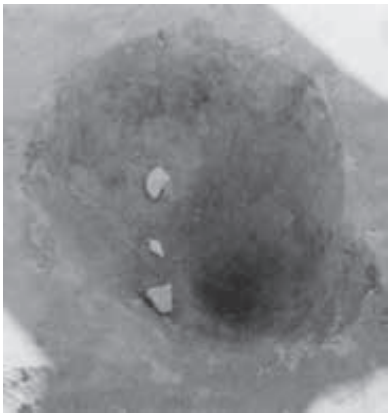
０３Ｄ遺物出土状況（西から）

０３Ｄ全景（南から）

遺跡全景（北から）



０２Ｄ炉跡

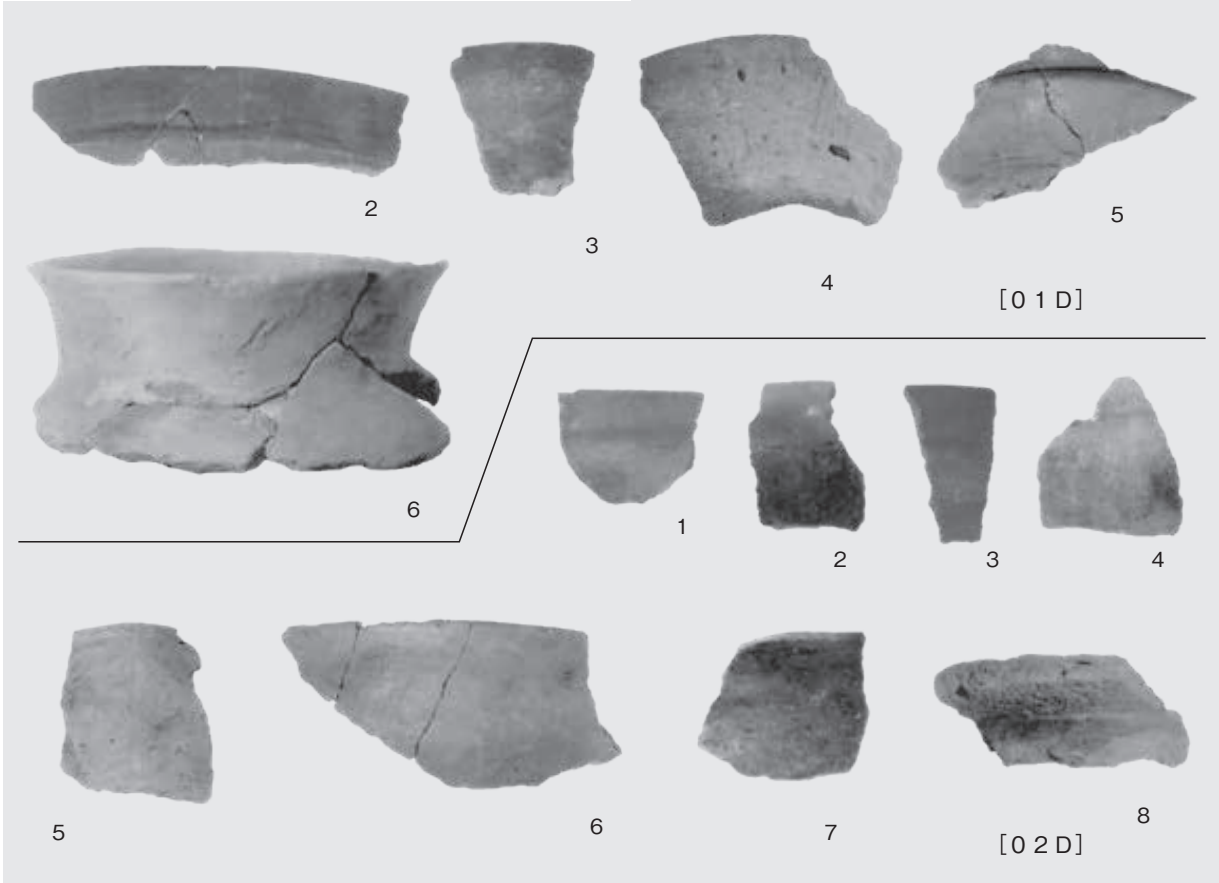


０１Ｐ遺物出土状況

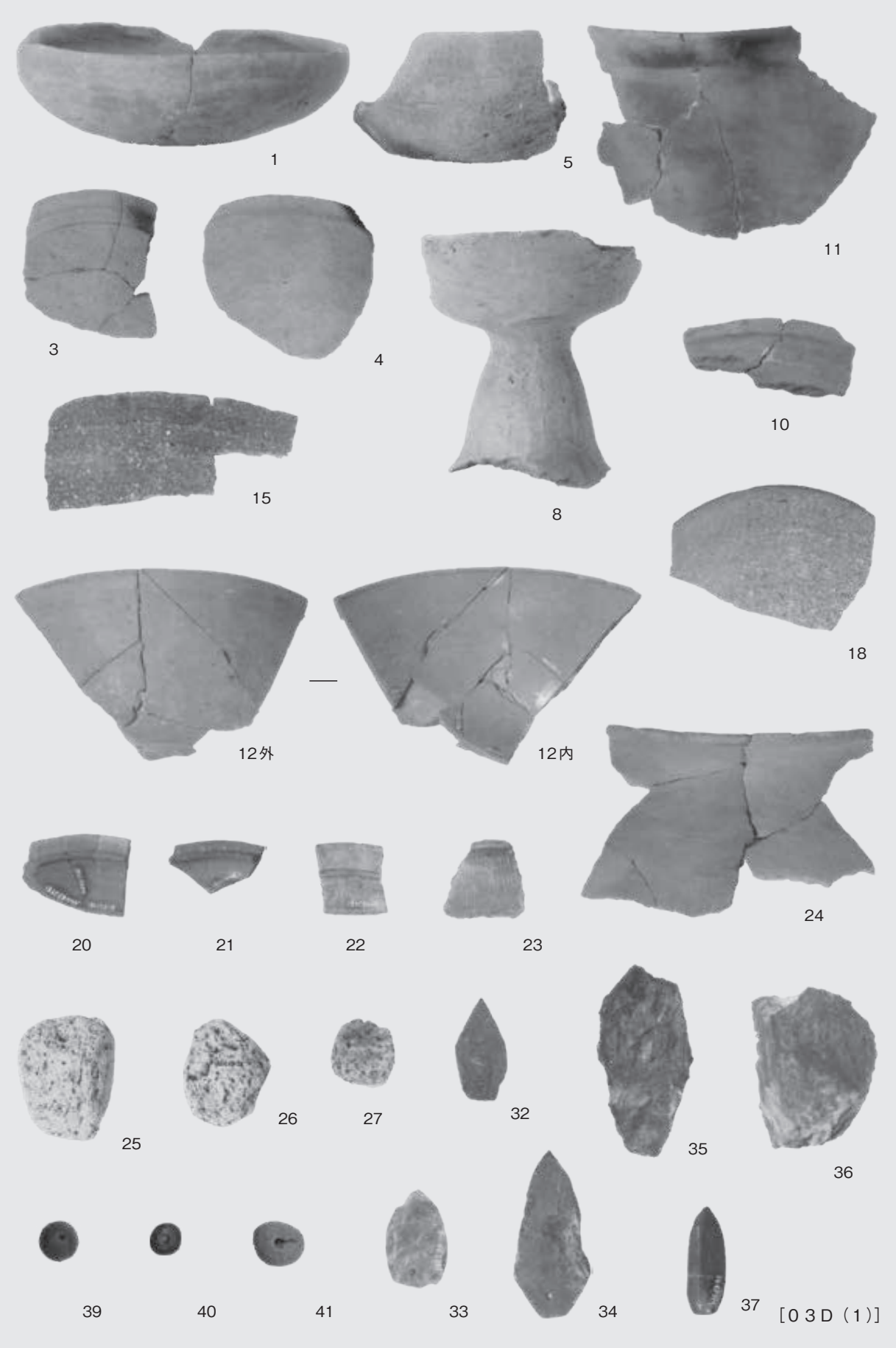
０２Ｐ全景

１４Ｐ全景

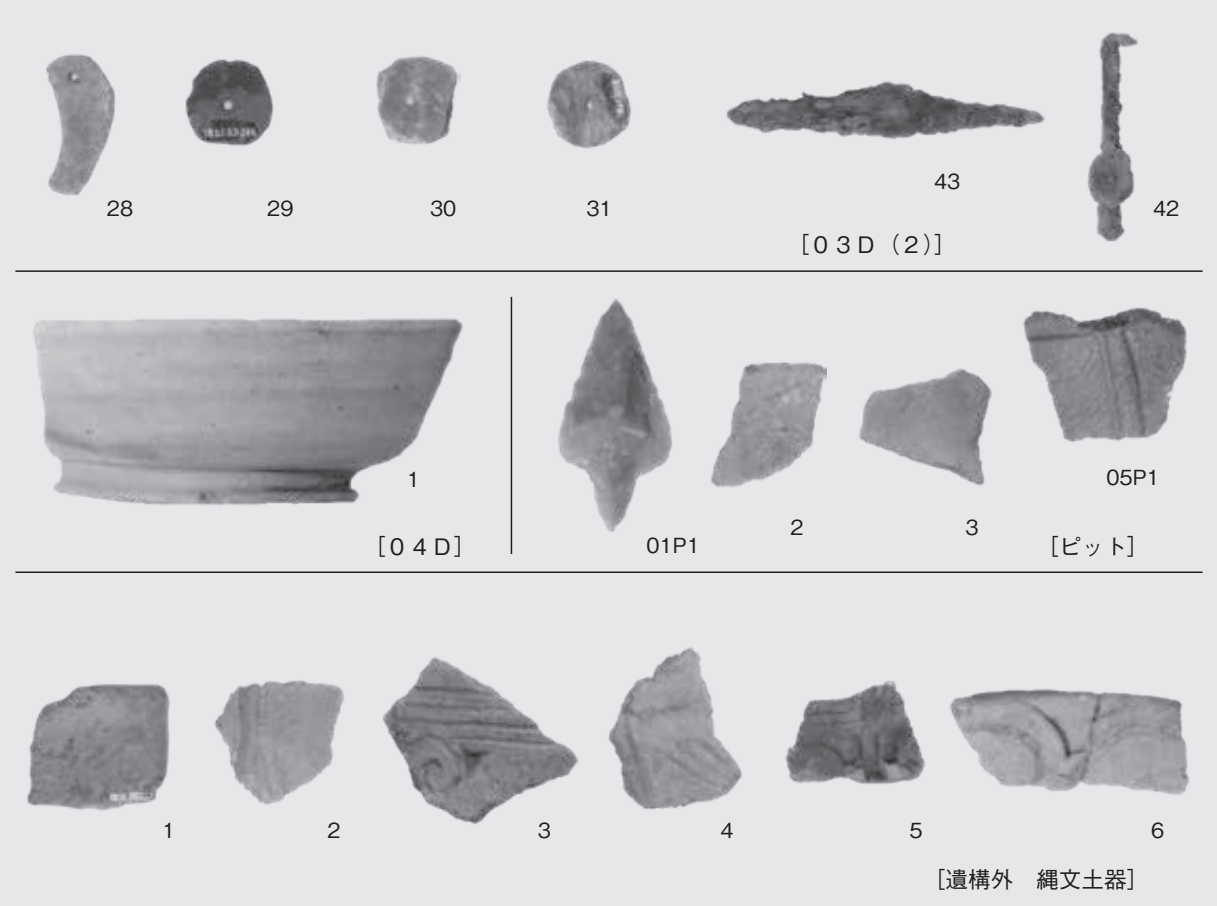
1



図版３遺物［０３Ｄ（１）］


1
5
11
3
4
8
10
15
18
12外
12内
20
21
22
23
24
25
26
27
32
35
36
39
40
41
33
34
37
［０３Ｄ（１）］

## 図版４遺物［０３Ｄ（２）・０４Ｄ・ピット・遺構外縄文土器］




## 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ちばけんやちよし　なんかいどういせきしーちてん |
| 書名 | 千葉県八千代市南海道遺跡ｃ地点 |
| 副書名 | 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 編著者名 | 森　竜哉 |
| 編集機関 | 八千代市教育委員会 |
| 所在地 | 〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地２　TEL 047（483）1151代表 |
| 発行年月日 | 平成31年３月25日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所　在　地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| なんかいどういせきｃちてん<br>南海道遺跡ｃ地点 | かやだあざにしぼり<br>萱田字西堀747番１ | 12221 | 182 | 35度<br>44分<br>７秒 | 140度<br>６分<br>31秒 | 20180724<br>～<br>20180830 | 上層308.5 | 宅地造成 |

| 所収遺跡名 | 種　別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 南海道遺跡ｃ地点 | 包蔵地 | 縄文時代･古墳時代<br>奈良平安時代 | 古墳時代竪穴建物跡３棟<br>奈良時代竪穴建物跡１棟<br>同時代ピット12基・掘立柱建物跡１棟 | 縄文土器（前中期）<br>古墳時代土師器・石製模造品<br>奈良平安時代土師器・須恵器 | |
| 要　　約 | 調査において，竪穴建物跡４棟が検出された。内訳は古墳時代中期２棟・同後期１棟・奈良時代１棟である。本遺跡での調査は３地点目となるが，本格的調査は今回初めてである。隣接の北海道遺跡と同様の遺構構成であり，弥生時代後期土器片も３片出土している。特筆すべきは，縄文中期初頭～前半の土器等がまとまって出土しており，低台地上での土地利用について，今後の参考となる。 | | | | |

千葉県八千代市
南海道遺跡 c 地点
― 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

| | |
|---|---|
| 発　行　日 | 平成 31 年 3 月 25 日 |
| 編　　集 | 八千代市教育委員会　教育総務課 |
| | 〒 276-0045　八千代市大和田 138-2 |
| | TEL　047-483-1151（代表） |
| 発　　行 | 関口　幸男 |
| 印　　刷 | 金子印刷企画 |